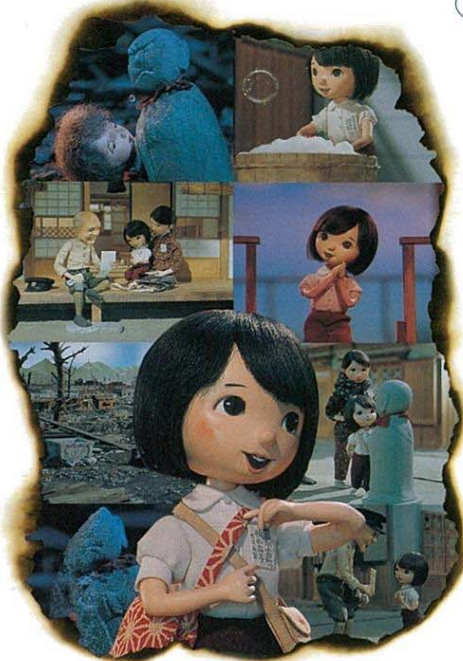


平和の尊さと命の大切さを子供たちに伝えるビデオシリーズ

おこりじぞう

文部省選定
児童人形アニメーション



わらいじぞうは、おこりつづける。
核兵器がなくなり、戦争がなくなる日まで。
(核兵器の恐ろしさと平和の尊さを、子供たちに。)

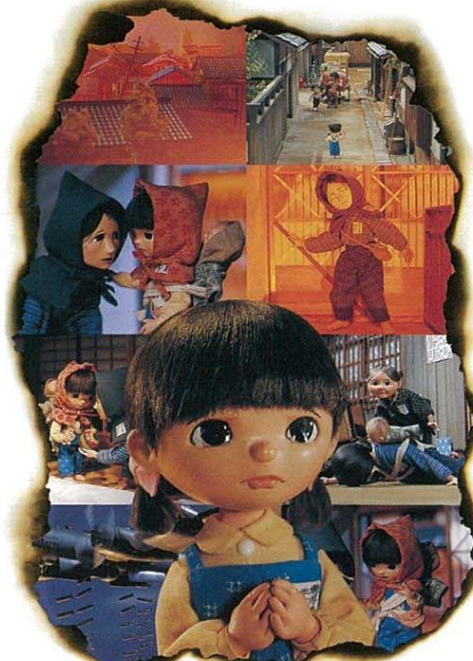
原作：山口勇子（新日本出版社）より 脚本：板谷紀之 監督：板谷紀之・河野秋和

【声の出演】ひろちゃん：関かおり／お母さん：佐々木愛／おじいさん：鈴木瑞穂
ナレーター＝中村啓子

企画・製作：山口逸郎／音楽＝木下忠司／撮影協力：広島映画センター
製作協力：ビデオ東京プロダクション

おがあちゃんごめんね

文部省選定
児童人形アニメーション



大空襲の日、炎の中に消えたお母ちゃん。
昭和20年大空襲・堺市大空襲の体験。

原作：早乙女勝元（華土文化刊）より 脚本：板谷紀之 監督：河野秋和

【声の出演】お母さん：磯村みどり／絹ちゃん：守屋利恵／みよちゃん：斉藤史絵子
おじいさん＝花沢徳衛／ナレーター＝中村啓子

企画・製作：山口逸郎／音楽＝宇都宮安重／撮影協力：東京空襲を記録する会・堺市教職員組合・
堺市立英影小学校／製作協力：ビデオ東京プロダクション

ながさきの 子うま

昭和20年8月9日・長崎。
子馬の耳から消えた
母馬の声とアンジェラスの鐘。

「長崎を最後の被爆地に」の誓いと願いを込めて。



原作：大川悦生（新日本出版社）より 監督・脚本：河野秋和

【声の出演】いなさ号：湯澤真伍／母馬：小沢かおる／秀男＝坂根慶祐／やす子：押谷芽衣
ナレーター＝中村啓子 その他

企画・製作：山口逸郎／音楽＝木下忠司／製作協力：ビデオ東京プロダクション

トビウオのぼうやは びょうきです

1954年3月1日。
ビキニ島でいったい何が
起こったのでしょうか。

サンゴ礁の美しい静かな海を、突然おそった水爆。



原作：いぬいとみこ（金の星社刊）より 脚本：板谷紀之 監督：宮崎一哉・板谷紀之

【声の出演】トビウオのぼうや：大原和彦／トビウオのお母さん：丘さとみ／トビウオのお父さん：小杉
勇二／トビウオのおじいさん：千葉茂則／たこの医者さん：伊藤理昭／ナレーター＝日色ともゑ その他
企画・製作：山口逸郎／音楽＝木下忠司／キャラクターデザイン：木下蓮三／プロデューサー＝伊藤 毅・
林大三郎／協力：虫プロダクション・サンルック

おかあちゃんごめんね

かいせつ

星になったおかあちゃん。絹ちゃんは、いまでも“炎の夜”を忘れません。昭和20年7月10日は、大阪・堺市民にとって二度と忘れることのできない日となりました。戦争中の日本は、この年アメリカ軍の空襲によって、何百万人もの人たちが日本中で、殺され傷つき焼け出されました。堺市ではこの日、1,860人もの人たちが殺され、970人以上の人々が傷つきました。私たちは、この悲しい過去を忘れてはいけません。このお話は、大阪の「戦争体験を記録する会」がまとめた記録のひとつで、当時6才だった浜野絹子さんの体験をもとに、早乙女勝元が平和教育の素材として一冊の本にしたものを原作に、平和人形アニメーションにしたものです。

ものがたり

大阪の古い町、堺。泣き虫の絹ちゃんは体の弱いお母さんと、また小さな赤ちゃんのみち坊と3人暮らし。そのころ毎晩のように続く空襲は、日本中の大きな町を焼け野原にしていきました。7月10日夜、B29の大編隊。大阪の町に雨のように降ってくる爆弾。火の海は絹ちゃんたち親子3人にも容容なくせまってきます。お母さんはこん身の力をふりしぼって逃げようしますが力がついて動けません。3人で一緒に逃げようとする絹ちゃん。動けないお母さん。その時、迫る炎の中でお母さんがとった行動とは……



カラー 26分
ライブラリー価格:60,000円(税別)
学校等特別価格:30,000円(税別)

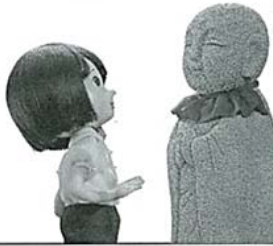
おこりじぞう

かいせつ

まだ、日本の国が戦争をしていた昭和20年。広島に原子爆弾が落とされ、約14万人の人が死に、町は跡形もなく焼け野原となりました。それから数年後の広島に「おこりじぞう」と呼ばれる、首と胴体がつながっていないお地蔵さんが立っていました。この首は元からのお地蔵さんのものではないようです。一体どうしたのでしょうか？そして、なぜ怒った顔をしているのでしょうか？この映画は山口勇子さんが書いたお話をもとに人形アニメーションにしたものです。この「おこりじぞう」の鑑賞を通じて、核兵器の恐ろしさと平和の尊さを、親から子へ、教師から児童・生徒へと語りつがれることを私たちは、期待します。

ものがたり

昭和20年、広島に住むひろちゃんは「わらいじぞう」と呼ばれる笑い顔のお地蔵さんと大のなかよしでした。8月6日、その日はひろちゃんの6回目の誕生日。そして運命の日でした。いつものようにわらいじぞうと遊ぶひろちゃん。柱時計が朝8時15分を指したその瞬間、ピカッと光ると同時にものすごい音と大爆発。一瞬で街が焼け野原になってしまいました。「みず……おかあさん……みずちょうだい」とわらいじぞうに訴えるひろちゃんの背中は、大やけどです。その時、いつもにこにこしていたわらいじぞうの顔が……



カラー 28分
ライブラリー価格:60,000円(税別)
学校等特別価格:30,000円(税別)

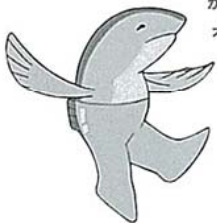
トビウオのぼうやはびようきです

かいせつ

1954年3月1日、太平洋の中にあるビキニ島で、アメリカが水素爆弾の実験をしました。この爆発で人間が病気になる死んでしまう、おそろしい灰がたくさんばらまかれました。近くでマグロをとっていた「第五福竜丸」という船も、この灰をあびてしまい、23人が病気になる久保山愛吉さんが亡くなってしまいました。被害にあったのは人間だけではなく、底はめっちゃめっちゃに壊され、たくさんのお魚たちも同じように海の病気になる寝たきりになったり死んでしまいました。“私たちは、この悲惨な出来事を絶対忘れてはいけません”という思いをこめて、いぬいとみこさんの童話を原作にアニメ映画にしたものです。

ものがたり

いつも元気で明るいトビウオのぼうやは、お母さんと空を飛ぶ練習をしていました。サンゴ礁の海の上をピューッと飛ぶトビウオの親子。「ばく、とんだ、とんだ!!」と大喜びのトビウオのぼうや。その時、突然火の玉のような大爆発がおこり、海の底はめっちゃめっちゃになりました。友達は死に、トビウオのぼうや達のお家もなにもかも壊れてしまいました。そして、空から白い灰が降ってきたのです。それをかぶってしまった、トビウオのぼうやは病気になる寝たきりになってしまいました。もうお父さんやお母さんと一緒に、空を飛ぶことはできないのでしょうか。一体なぜこんな事になってしまったのでしょうか。



カラー 19分
ライブラリー価格:40,000円(税別)
学校等特別価格:20,000円(税別)

ながさきの子うま

かいせつ

日本がまだ戦争をしていた昭和20年の夏。広島に原子爆弾が落とされ、たくさんの人々が亡くなった3日後の8月9日長崎。再び原子爆弾が人間の頭上に落とされました。犠牲になったのは人間ばかりではなく、長崎に住んでいた、たくさんの動物たちもまた犠牲になりました。その中にはお母さん馬と幼い馬もいました。この作品は、大川悦生・著「ながさきの子うま」をもとに製作した平和人形アニメーションです。長崎のかわいい子馬を主人公に、他の動物たちのユニークなキャラクターも加わり、やさしく平和と生命の尊さを伝えつつ“長崎を最後の被爆地に”の誓いと願いをこめて、幼い子どもたちだけでなく大人たちにも送る作品です。

ものがたり

昭和20年、長崎の農家で、とても元気のいい子馬が生まれました。名前を「いなさ号」といいます。夏のある日、広島にすごい爆弾が落ちて街は全滅したと、クラスが教えてくれました。沖縄もやられ日本中が戦場になろうとしています。「私は、大変な時にこの子を生んでしまった。」母馬は、爆弾の落ちてこない山に、いなさ号を連れていこうと考えます。山で暮らせるかと聞いて喜び跳ねるいなさ号。その時、まるで太陽がまるごと落ちたような光と大爆発。いなさ号は爆風に吹き飛ばされた馬屋の下敷きに。母馬は必死でいなさ号を助け出しました。しかし本当は、母馬も動けないほどの大怪我をしていたのです。



カラー 27分
ライブラリー価格:60,000円(税別)
学校等特別価格:30,000円(税別)

4作品セット価格＝ライブラリー価格:200,000円(税別)／学校等特別価格:100,000円(税別)



●お申し込み・お問い合わせは

(映) 有限会社 博映商事

【飲酒運転撲滅宣言企業】

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】<http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】info@hakuei-shoji.jp

